

四国国立 5 大学における共通シラバスと履修プロセスの開発

Development of Common Syllabus and Registration Procedures among the Five National Universities in Shikoku

吉田 明恵, 仲道 雅輝, 根本 淳子, 田中 寿郎,
林 敏浩, 村井 礼, 金西 計英, 宮下 晃一, 立川 明
Akie YOSHIDA, Masaki NAKAMICHI, Junko NEMOTO, Toshiro TANAKA
Toshihiro HAYASHI, Hiroshi MURAI, Kazuhide Kanenishi, Koichi MIYASHITA, Akira TATSUKAWA
大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
University Consortium for e-Learning, Shikoku Center

あらまし：著者らは、単位互換ではなく、四国地区国立 5 大学が共同で教育科目を設定し、自大学の科目として開講する仕組み作りを目指し、平成 27 年度からの運用に取り組んでいる。まずは各大学の制度の違いを知ることが何を決定するにも必要であり、我々共同教育実施モデル WG は、各大学のシラバスから、履修登録から成績評価までの流れの中での違いについて調査した。教育の質保証に向け、他の WG と連携し、共同モデルの実施・改善を目指している。その現状と今後の展望について報告する。

キーワード：共同実施モデル、大学連携、e-Learning、シラバス、履修プロセス

1. はじめに

平成 24 年度から開始した愛媛大学・香川大学・徳島大学・鳴門教育大学・高知大学で取り組んでいる「四国地区国立 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」は、3 つの事業から成り立っている。入口に「AO 入試」・出口に「産学官連携」があり、その入口と出口をつなぐ役割として著者らが取り組む e-Learning での「共同教育の実施」がある。

京都三大学（京都府立大学・京都工業繊維大学・京都府立医科大学）で、平成 26 年度より実施されている共同教育⁽¹⁾では、3 大学の学生が一つの建物に集まって講義を受けている。その「建物」が四国 5 大学の場合には、「オンライン」であると言える。

2. e-Learning での共同教育の実施に向けて

2.1 「共同教育の実施」の目的

e-Learning での「共同教育の実施」事業の目的は、四国の国立 5 大学が相互に連携し、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完することで、教育の質の向上を目指すことである。本来「建物」で集い、学生間交流で切磋琢磨される部分については、課題に関する意見交換や掲示板などオンライン上で補完できる仕組みづくりを目指している。

2.2 平成 26 年度の検討課題

平成 26 年度の段階で平成 27 年度から運用を進めるには、次の 4 項目を検討する必要があると考えた。

1) プロジェクトの到達目標共同実施モデル案については①共同実施モデル事業の到達目標・ビジョンの提案②年間 WG スケジュールの整理が検討課題である。

2) e-Learning 科目の選定については①平成 27 年度開講科目の調査・提案・確定②シラバス情報収集フォーマットの作成が検討課題である。

3) e-Learning 授業実施プロセス策定（履修から成績判定まで）については①5 大学の科目設置等に係る学内審議決定スケジュールの調査と確認②本事業における履修期間・成績入力期間の決定③履修登録から受講・成績判定に関する業務フローの作成が検討課題である。

4) 履修案内の方法と内容については①履修に関する情報公開の方法の検討・提案②履修案内として公開すべき情報の整理③試験や認証方法に関する案の作成が検討課題である。

2.3 平成 26 年度の実施と決定事項

上記の検討課題について、共同教育実施モデル検討 WG での取り組みと決定事項は、以下の通りである。

1) については①事業ビジョンを共有するために必要な資料を用意した。本事業における「コンテンツ」は科目単位にカウントすることとした。②本事業での活動を実際にどのように進めていくかスケジュール表を作成した。（図 1）

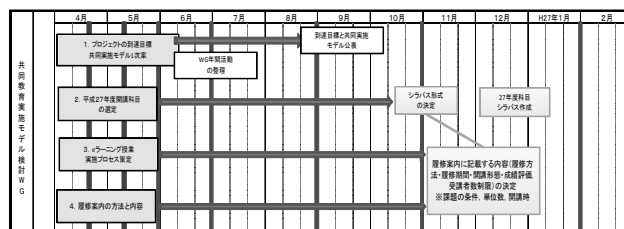


図 1：年間 WG スケジュール

2) については①平成 27 年度は合計 8 科目の実施とした。②5 大学全ての情報を収集するためのシラバス入力フォーマットを開発した。(図 2)

シラバス入力フォーマット記入例			
開講年度	2015	開講学期/時間割/履修期間	前期
開講学部・学科等/区分	○学部○●学科	授業形態/授業種別	
授業科目区分/科目分野/科目区分/区分	専門教育科目	DPコード/分野コード	
科目名(科目英文名/英文併記)	○●△学 (Ceramics Science and Engineering)		
副題(日本語・英語)			
担当教員名(教員ローマ字表記)	佐藤 太郎 (TAKO Eline) TAKO Eline		
授業の目的及び主旨	授業形態: 講義 演習 演習 前期後半 学習保証時間: 22.5時間 セラミックスは金属に比べ、組織や構造が多様多様であり、様々な特性を示す。その多くの場合、様々な形態の微細な結晶の集合であり、結晶粒やその形状と結晶特性とに関連した複雑な特性を示す。ここではセラミックスについて、結合や結晶構造、創製プロセス、電気的・磁気的・機械的性質などの基礎的な知識を得ることを目的とする。		

図 2：シラバス入力フォーマット

3) については①スケジュールを調査し一元管理できるように一覧表を作成した。②履修登録期間については、5 大学の状況を踏まえ、締め切りの遅い大学に合わせる。(毎年度、学年暦を踏まえて調整する) オンライン上での授業科目の開講は授業開始が最も早い大学に合わせて開始する。また、その場合は、最初の課題提出期限を最も履修登録完了が遅い大学の登録締め切りから 2 週間程度空けて提出期限を設けることとした(図 3)。③成績評価入力期間については、履修登録期間と同様に 5 大学の状況を踏まえ、前期・後期それぞれに、締め切りの早い大学に合わせる(毎年度、学年暦を踏まえて調整する)。成績評価方法については、科目担当教員は、素点(点数)で評価し、各大学で事務的に処理し(優良可、もしくは秀優良可など)、各大学で成績入力をする事とした。④学生への履修案内、履修登録、授業、成績判定までの業務フローの整理をした。

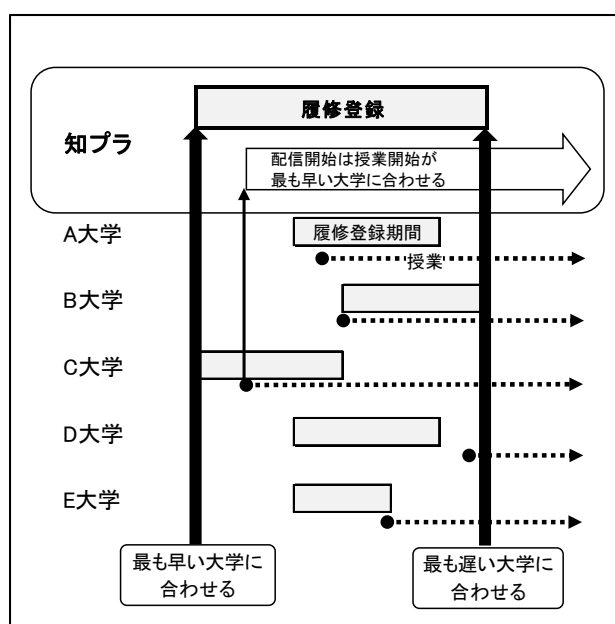


図 3：履修登録・成績入力期間と配信開始時期

4) については①本事業の科目に関する情報はホームページ上に一元化した。②ベースとなる履修案内の作成。③試験の本人確認については、各大学の学生 ID とパスワードでのログインで本人確認とする。課題を工夫し、思考を問う問題を作成し、カンニングを防止する。ポータルや認証についてのシステム運用の為、新たにシステム WG を立ち上げた。

3. 平成 26 年度 of 取組から得られた成果物

3.1 年間 WG スケジュールの開発

各大学の学年暦と事務手続きでの締め切り情報を収集し、可能な限り書き出した。そして、本事業で必要なデッドラインを決定し、年間 WG スケジュールを作成した。

3.2 共通シラバスの入力フォーマットの開発

各大学のシラバスに記載されている項目を全て書き出し、シラバスチェックリストを作成した。まず単語は異なるが、内容が同じものを統一した。そして、共通の項目の数を明確にし、単独で存在する項目はその要・不要について話し合い、5 大学で必要な項目を記載したシラバス入力フォーマットを完成させた。

3.3 履修登録・成績評価期間の設定

各学生のシラバス登録期間情報を一覧にし、そこへ抽選日や開講時期など事務的な締め切り、教員による成績評価期間や学生への成績発表日を書き込み、教員・職員の各締め切りを明らかにした。成績評価については、90 点以上で「秀」を設けているのは、愛媛・香川・鳴門教育大学の 3 大学であることが分かり、教員は素点のまま成績を各大学へ提出し、各大学事務課で成績変換をすることとなった。

4. 今後の課題

現在平成 27 年度後期の開講に向けての準備がほぼ終わり、開講時に問題が起きた場合に備えている段階である。話し合いで気づかなかったことが、一覧表にすることで各大学の事務手順の違いや明確にすべき点が浮き彫りになった。

しかし、細かな詰めが出来ていない点もあり、開講時に初めて把握できる問題もあるだろう。平成 27 年度科目で問題が生じた際、如何に改善するのか、5 大学・WG で検討し、平成 28 年度科目に随時反映させていく。科目終了後のアンケートから得られた学生の声を活かすことで、更なる学習環境の向上を目指し、5 大学で協力体制を整えていく。

参考文献

- (1) 京都三大学教養教育研究・推進機構：“京都三大学教養教育共同化とは”，<http://kyoto3univ.jp/p105>
- (2) 村井礼：“四国における大学連携 e ラーニング事業の紹介”，情報教育シンポジウム 2014 論文集，Vol. 2014，No. 2，pp. 1-2 (2014)